



能「恋重荷」。老人の悪霊が現れ、女御に迫る場面

幽玄の世界へ

10/8

のべおか天下一新能 延岡総合文化センター

能「羽衣」など優雅に

第22回のべおか天下一新能は6日、延岡市の延岡総合文化センターで昼夜2回公演があり、約1,200人が観世流能楽師シテ方の片山九郎右衛門さんらによる一流の舞を堪能した。主催は、NPO法人のべおか天下一市民交流機構、延岡市、延岡市教育委員会。

片山さんは、のべおか天下一新能で初上演された能「恋重荷」でかなわぬ恋心を持ち、受けた仕打ちから悪霊になった老人の絶望や深い恨みを表現。能「羽衣」では、華やかな装束姿で高貴な天女の舞を優雅に舞った。台風24号の強風で、予定していた延岡城址(し)二の丸広場の棧敷席などが被害を受け、会場を変更しての開催だったが、観客は片山さんらの舞に見入り、幽玄の世界に引き込まれた。

狂言「太刀奪」では大蔵流狂言師の茂山千五郎

さんらによる主人と太郎冠者のかみ合わないやり取りや滑稽なしくさに会場から笑い声が上がった。

また、昼公演では延岡市内の小学6年生、高校2年生11人が仕舞「狸々」「岩船」「舍利」を堂々と発表し、大きな拍手を浴びていた。

新能では旧延岡藩主の内藤家から延岡市に寄贈された貴重な能面を用いる。今回は能「羽衣」でシテが「小面」、能「恋重荷」で前シテが「三光尉」、ツレが「若女」を着用した。宮崎市の入船サツヨさん(78)は新能が始まったころから毎年のように長女夫妻と見に訪れているという。「狂言も面白く楽しめました。『恋重荷』は少し分からないところがあったので、うちに

帰ってから、トを見ながら。来年も楽しみです。来年もいいですね」と

2018.10.8



大人歌舞伎 熱演に拍手喝采

日之影町 笑いも満載、見物客楽しむ

会場の座敷は見物客で埋

日之影町岩井川の大人
(おおひと) 地区に伝わ

る県指定無形民俗文化財

の「大人歌舞伎」が7日

夜、同地区の「歌舞伎の

館」で上演された。町内

外から多くの見物客が訪

れ、地元の人歌舞伎保

存会(山本唯仁会長)に

よる芝居を堪能した。

大人歌舞伎の公演は、

毎年春と秋の2回。この

うち、秋は大人神社秋祭

りに合わせた演芸として

奉納されている。

この日は、同保存会の

役者約30人が出演。祝い

の舞「寿三番叟(さんば

そつ)で開演し、舞踊や

歌謡曲のアトラクション

を挟みながら、歌舞伎の

人気演目の一つでもある

「助六由縁江戸桜(三浦

屋の場面)」、平成22年以

来8年ぶりの披露という

名作「絵本大功記一段(本

能寺の場)」を熱演した。

まり、迫真の演技の中に
地芝居ならではの笑いを
交えた舞台を楽しんだ。
大人歌舞伎は、九州唯
一の農村歌舞伎として知
られる。1595(文禄
4)年に延岡藩主高橋元
種に攻められて自害した

中崎城主の甲斐宗頼(日
之影地方一帯を治めてい
た武将)をしのび、天明
年間(1781~178
9年)に地元の村人が宗
頼の好きだった芝居を演
じて供養したのが始ま
り、とされている。

受け付ける。投票は14日
午前7時から午後6時ま
で町内15カ所(うち4カ
所は午後5時まで)で行
われ、午後7時30分から
同町中央体育館で開票さ
れる。
また、10日から13日ま

祭市街地は祭り一色

日向十五夜祭「~~ね~~跳ねる「ラッセラー」盛り上がる

県北三天祭りの一つ、7日、JR日向市駅前を主会場に開かれた。日向十五夜祭りが、交流広場と中心市街地 厄年の男衆による八幡神社のみこしが練り歩き、舞踊隊のパレードや多彩なステージイベントで市街地を祭り一色に染めた。主催は同祭奉賛会(鎌田実会長)。

今年はまだ、日向商工会議所が創立70周年記念事業の一環で、「青森ねぶた祭」の踊り手「跳人(はねと)」の舞踊隊「ねぶた跳人隊」

を組織。三輪純司会頭や十屋幸平市長など約40人が参加し、「ラッセラー」の掛け声とともに跳ね歩き、祭りを盛り上げた。

舞踊隊には上町区、本町区、市職員、奉賛会本部舞踊隊の約350人が参加。会場では手作りのお化け屋敷、ダンスや和太鼓などのステージイベントもあり、来場した市内外の家族連れなどが思い思いに楽しんだ。

「ラッセラー」の掛け声で祭りを盛り上げた「ねぶた跳人隊」(6日)



2018.10.8